小惑星『香美市』の発見・命名者

コメットハンター 関勉（せき つとむ）さんが語る

10月31日の天文講演会では『星を見つめて』と題して関勉さんも講演されました。

命名に8年

彗星は発見者の名前がつき、小惑星には発見者に命名権がある。命名するには、小惑星が４回地球へ接近する時の確認が必要であり、8年かかっている。

小惑星『香美市』が現実のものになるまで筆舌に尽くしがたい苦労があった。1回発見したから、命名できるものではない。確実に小惑星であると判断するには1カ月以上の観測が必要で、高知市の自宅から芸西村の天文台まで約40㌔を往復しなければならない。この数十回の観測でも認定されず、さらにこの小惑星が地球と会合するのに2～3年待たなければならない。もう1回見つけたら同じように1カ月以上の観測が必要となる。大変苦労して名付けた天体なので、有名になってほしい。

香美市関係の命名はこれで終わったわけではない。もう一つ、二つ、香美市に関する星の名を命名したいと思っている。

香美市には恩がある

進学する際に親に連れられ、谷秦山先生の墓所に合格祈願に行った。おかげさまで無事に合格した。大変感謝している。次、小惑星を見つけたら『谷秦山』と名付けたい。『在所隕石』という名前もつけたいと思っている。隕石の元は小惑星のかけらなので、香美市に落ちた在所隕石の名前が宇宙に戻るというのも面白い。

三嶺での再起

28歳で彗星を探すことを中止していた私は、30歳になったとき香美市の三嶺に一人で登った。そこで非常に美しい夕焼けを見た。発見者にならなくても、いつまでも美しい宇宙を見つめて観測をすることこそ幸せであると感じるようになった。そして彗星の観測を再開し、その1カ月後に関彗星を発見することができた。彗星を探し始めて12年目にして初めて発見することができた。一回見つけると、今までやってきたことでいいんだという力強い自信がつき、3個目に池谷・関彗星を発見した。感謝の気持ちを込めて、私が発見した小惑星の一つに『三嶺』と名付けた。

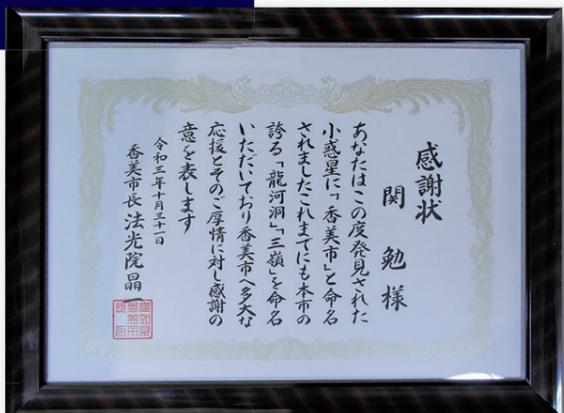
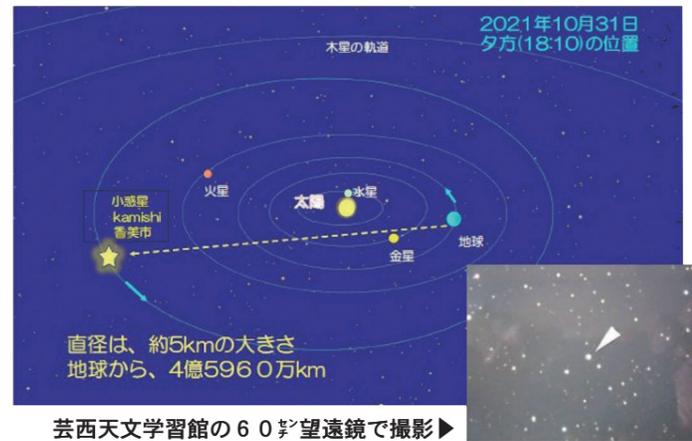
世界的に有名なコメットハンター。223個の小惑星、6個の新彗星を発見している。なかでも、1965年9月に発見された池谷・関彗星は20世紀最大の彗星として世界中から注目され、肉眼でもはっきりと見える彗星として日本に天文ブームを巻き起こすきっかけとなった。91歳となった現在も、芸西天文学習館で講師として、講演や観測を行い、県内外で天文学の普及のため活躍中である。

宮地竹史さん作成
（アストロアーツ社「ステラナビゲータ」使用）

へび座
たて
いて座
へびつかい座
金星
みなみのかんむり座
ぼうえんきょう
さそり座
さそり
小惑星
Kamisihi=香美市
南西
西南西

小惑星『香美市（Kamishi）』の位置

令和３年１０月３１日１８時１０分現在、西の水平線上にあるさそり座の頭の近くにあります(小惑星なので動きます)。等級は、１９．２等と暗く、肉眼で見ることはできません。

芸西天文学習館の６０㌢望遠鏡で撮影▶

関 勉（せき つとむ）さん プロフィール

1930年　高知市上町に生まれる。
1950年　上町の自宅から自作の望遠鏡で彗星の捜索を始める。
1961年　初めて彗星発見。（関彗星）
1962年　関・ラインズ彗星 発見。
1965年　池谷・関彗星 発見。
　　　　大彗星に成長し、世界的に有名になった。
1967年　第二関彗星 発見。
　　　　第二池谷・関彗星 発見。
1970年　鈴木・佐藤・関彗星 発見。
1973年　著書『星のかりゅうど』を出版。
　　　　天体観測所を芸西村に移転。
1981年　初めて小惑星２個を発見。
　　　　『五藤』『高知』と命名。
　　　　その後、２２３個の小惑星を発見し、高知に関する命名も多数ある。
　　　　県立芸西天文学習館 開館。
　　　　講師となる。
1984年　芸西天文台で日本最初のハレー彗星観測に成功。
1995年　著書『ホウキ星が呼んでいる』を出版。
2010年　東亜天文学会の会長に就任。
　　　　（現在は顧問）

★今月号のかみかみクイズでは、宮地さんと関さんのサイン入り著書をプレゼント！詳しくは、裏面（32ページ）をご覧ください！

感謝状
関 勉 様
あなたはこの度発見された小惑星に「香美市」と命名されましたこれまでにも本市の誇る「龍河洞」「三嶺」を命名いただいており香美市へ多大な応援とそのご厚情に対し感謝の意を表します
令和三年十月三十一日
香美市長 法光院晶一

小惑星に『香美市』と命名いただいたこと、および香美市の誇る『龍河洞』や『三嶺』などを小惑星に命名いただいていることに感謝し、10月31日の天文講演会で、香美市から関さんに感謝状が贈られました。